

季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼^{しつらい}」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。



写真：安井進

受講の感想

山本先生のお話の中で、室礼とはご先祖様に感謝の心を供し、行事を通して植物の命と人間の命は同格であることを知ることが大切と教わった。菊の花は一茎一花であり、他に頼らずひとりで立っている。それは人も同じ。今回の教室では、菊を丸くしつらえ（丸い形は私たちの心を表す形だそうです）一本ずつ立たせました。この菊の力を借り「長寿でありますように」と祈りを込めながら花を立てることが大事と教わり、教室の他の方たちも皆、30分近く静寂の中で、各々の思いを込めて1本1本活かしていたのが印象的でした。私も、今年85歳になる母がさらに長生きでありますようにと、願いを込めながら菊を立たせました。完成して意外だったのは、丸く活けた菊の花が、とても華やかでしかも力強い花なのだ気づいたこと。特に山本先生が洋の器に入れてくださり、とても身近な感じがしました。また、翌日には菊に被せた真綿に菊の精が移り、それを顔や体につけると若さや長寿を保てるそうなので、忘れずにこちらも行いました！（熊丸梨奈）

長月（重陽の節供）

陰暦の9月9日は五節供の一つ、重陽の節供。

菊の節供とも言われ中国由来の行事です。

菊は長寿、長命の花とされ、

中でも黄色の菊が位が高いとされています。

重陽の室礼では「菊尽くし」を行います。

菊の花を飾り、その香りで邪気を祓い、

菊の形の和菓子や、菊花を浮かべた菊酒を飲み、

菊花にかぶせた綿でからだを拭い、長寿を願います。

同じものを重ねてしつらえるのは、

通常はあまり好ましくありませんが、

菊と梅だけは「尽くし」をして良いのです。

山本三千子先生の著書：「室礼おりおり」(NHK出版)、「暮らしの室礼十二か月」(淡交社)、「[[四季の行事]のおもてなし」(PHPエル新書)ほか。

提供：室礼三千（しつらいさんぜん）

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020（火～土曜日午前10時～午後5時／日・月曜定休日）●体験教室もあります